

モモの品質向上と生産面積の拡大

大津・南部農業普及指導センター

【普及活動のねらい】

栗東もも生産組合（平成 11 年設立）は、取り遅れによる商品化率の低下や高樹齢化、病虫害の発生により生産量が激減し、平成 27 年度には生産者 4 戸、栽培面積 36a で、10a あたりの出荷量は 355kg と低迷し、産地の維持が困難な状況でした。

こうしたことから、モモの適期防除と適期収穫による安定出荷および改植や新規栽培者の取り組みによる栽培面積の拡大を図りました。

【普及活動の内容】

（1）適期防除と適期収穫の実践

既存生産者に対して、研修会と個別巡回により、暦に基づく防除の徹底と生育に合わせた管理、適期収穫の確実な実践が行えるよう支援しました。今年度については特に果樹カメムシ類が大発生したことから、注意喚起を行いました。

（2）栽培面積の拡大と新植樹の管理

平成 28 年に、新規で植栽を推進する 3 品種を決定し、県単事業を利用して新技術を導入し、新植を進めました。新規植栽を誘導する研修会を開催するとともに、新植者に対して初期生育が確保されるように各生産者の樹の状況に合わせた個別巡回指導を行いました。



写真 現地研修会

【普及活動の成果】

既存生産者 4 戸の内の 2 戸については、病虫害の発生や取り遅れ等は見られず、品質も良好で直売所からの高評価を得ることができ、平成 30 年度の出荷量は前年比 3 倍以上となりました。

また、3 か年に及ぶ技術支援により、基本的な技術を習得されたと考えています。

面積拡大については、3 か年で 50a の新植（改植含む）が進み、新たな生産者も 8 戸増加しました。新植された園地については、概ね良好の初期生育となっています。今後、これらの新植園地で確実な収穫が得られるよう成園化に向けた指導を継続し、産地全体の出荷量の増大を図っていきます。

表 新植延べ面積と組合員数の推移

	H27	H28	H29	H30
新植延べ面積 (改植含む)	0a	24a	35a	50a
組合員数	4戸	8戸	10戸	12戸 (見込み)

◎対象者の意見

今回、新たな生産者が生まれ、産地に活気が戻りつつある。新規栽培者が確実に収穫を迎えられるよう、継続して指導いただきたい（生産組合長）。